



白門経友会

卒業おめでとう

ーみなさんの新たな船出によせてー

白門経友会会长・経済学部教授 松丸 和夫

二〇一二年の日本列島は厳しい寒さと豪雪に見舞われて始まりました。

昨年は、三月一一日の東日本大震災の影響で卒業式典が中止となりました。当たり前のことが当たり前にできることを喜びましょう。同時に、被災地の皆様の悲しみや苦しみに思ひを馳せましょう。大震災の教訓に

学ぶこと、これは私たちの責務だと考えます。

去年の夏、みなさんはそれぞれの課題に向かって、本当に汗まみれになつた。当たり前のことが当たり前にできることを喜びましょう。

同時に、被災地の皆様の悲しみや苦しみに思いを馳せましょう。大震災の教訓に追い込みで休む暇もなく机に向かっていた人もいるでしょう。企業訪問や最終面接で、焦りを感じながら満員電車に揺られ続けた人もいるでしょう。なかなか内定が出ず、卒業後の展望を失い、心が折れ、意欲をなくした人はいませんか。

二〇一二年の春に大学を卒業する皆さんの中には、過去最高の円高と企業

業績の低迷に直面しながら、将来的な進路を模索したことでしょう。大学を卒業するけれど、まだ今後の予定が立っていない人、素直に喜べない心境の人があることを私たちは知っています。

それでも私は敢えて言います、卒業おめでとう。大学を卒業すれば、みなさんはもはや学生ではない。でも人生には完全も完成もないのですから、みなさんの新しいスタートを喜んで送り出したい。それが皆さんのがんばりです。

母校となる中央大学関係者の本音です。そして、またいつでも母校に「元気でもどつておいで」と呼びかけたくなります。現実の社会には法律や常識、意欲や善意だけでは解決しない問題があります。現実の社会には法律や常識、意欲や善意だけでは解決しない問題があります。問題を解決するためには皆さんのこれまでの経験と知識を総動員して下さい。でも、一人だけで悩み、一人で立ち向かおうとしても手強い問題ばかりです。そんなときこそ、これまでの人生で得た

経験を活用して下さい。白門経友会は、いろいろな行事等で卒業生である学員も会員です。会費は頂きませんが、いろいろな行事等で卒業生である学員と交流することができます。第三に、経済学部の教職員も構成員になつています。二〇〇九年の六月に会長に就任して以来、こうした白門経友会の構成員たちのありがたさを折に触れ実感しています。

人間は一人では生きられない。一人ではなかなか強くなれない。だからこそ、白門経友会は緩やかなつながりと結びつきを大事にしながら、現役学生から卒業生の大先輩までを包摂する組織としてこれまで二〇余年の歴史を継続してきました。

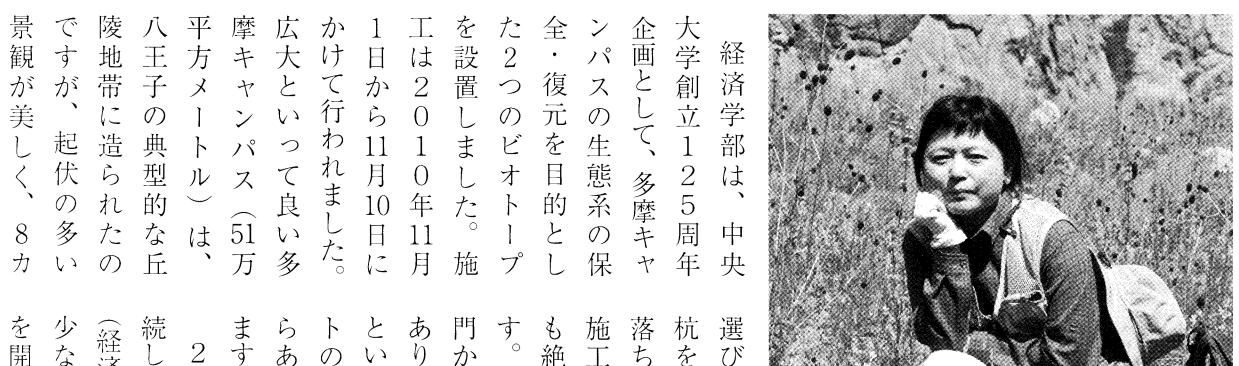
この度ご卒業される新学員のみなさん、母校中央大学と経済学部に誇りを持ち、そして愛して下さい。そしていつも、「ただいま」と元気な姿を私たちに見せて下さい。白門経友会は、いつでもみなさんのそばにいて、お役に立てるよう努力します。元気でいっぱいです。

友人や先輩、そして大学教職員に相談してみましょう。

2つの経済学部ビオトープ

黒須詩子(経済学部・教授)

経済学部は、中央大学創立125周年企画として、多摩キヤンパスの生態系の保全・復元を目的とした2つのビオトープを設置しました。施工は2010年11月1日から11月10日にかけて行われました。



広大といつて良い多摩キヤンパス(51万平方メートル)は、八王子の典型的な丘陵地帯に造られたのですが、起伏の多い景観が美しく、8カ所があります。

2つのビオトープは、経済学部が継続して管理するものとし、実行委員会(経済学部教員11名を含む)を中心に少なくとも年に一度、公開の観察会を開く、水温の測定をする、等の活動を行つて来ました。先に述べたとおり、ビオトープ設置の目的は、元からある湧水を活かすこと、また、多摩キヤンパスの潜在的な生物多様性を復元させることです。池が完成してからいろいろな生物が戻つてくるのを心待ちにしていましたが、1年間でキヤンパスの自然の豊かさを象徴するような動植物が確認されましたので、ご紹介したいと思います。

施工後は、早速2月末にヤマアカガエルの卵塊一個ずつが二つの池に産み付けられていきました。ヤマアカガエルは、かつて多摩丘陵には沢山棲息していたらしく、料理店にも普通に出ていたとのことですが、現在は東京都の準絶滅危惧種となっています。両生類は移動力にも乏しいので、繁殖場所となる池が失われると、致命的です。保全に努めようとするば、優先的に守つていかなければなりませんことは、間違いありません。

両方の湧水には、今のところホタルは出でていません。自然発生してないところにホタルを導入することには、様々な意見が出できそうですが、



滝坂湧水

その餌となる巻き貝のカワニナなど

殻を見つけました。

機物を食べてくれるらしく

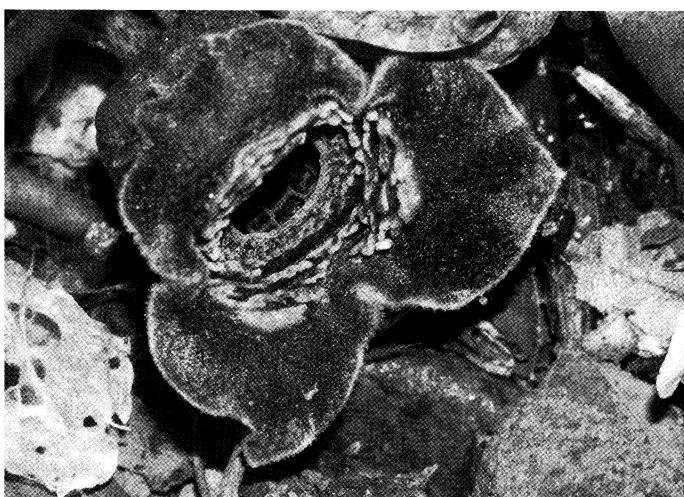
の餌。水を求める鳥の中でも、自然に見られるのは嬉しいことです。また、水を求める鳥たちが一日中見られるようになりました。シジウカラ、ヤマガラ、エナガ、ジョウロウ

滝坂湧水の回りでは、周辺の保全に伴い、固有種のタマノカンアオイ（絶滅危惧Ⅱ類（VU））の個体群が回復し始めています。また、エビネ（準絶滅

機物を全く動かさない。かなり水がきれいなのですが、7月までにカエルになつて上がつてしまふと、気温の上昇もあって、水が汚くなつ



大谷戸北湧水



タマノカンアオイ

いものであります。心より、感謝いたします。

第
22
回

22回 白門経友会

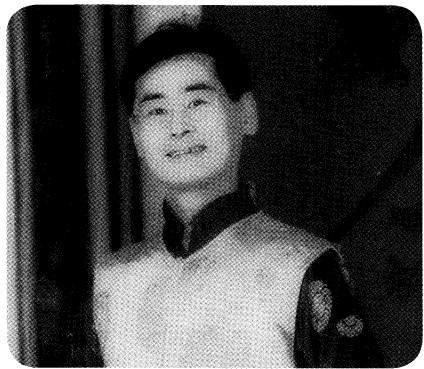
たことの賜物と考えています。心より、感謝いたします。

セミ学生は無料ですが、13:00より幹事会を開催いたしますので、役員の方は13時迄にご参集下さい。

中国研究者からのご挨拶

え、あの先生が！シリーズ⑩

中央大学経済学部教授　土田 哲夫



門書や世界史の講座ものなどを読むうちに、次第に中国の文化と歴史への関心を強めました。高校時代には、気に入つた漢詩を暗唱したり、『聊齋志異』のお化けの話を読みふけったり、アジア遊牧民の話に想像をふくらませたりと、すっかり中国マニアになつて学部に着任し、以来、中国語の授業をメインとし、演習やアジア史の授業も担当しています。専門は中国近現代史・国際関係史で、最近は、日中戦争期の中国外交と国際世論について研究しています。各種授業も研究も中国に関わることばかりとなります。

自分がどうして中国に関心を持つようになったのかを振

こんにちは。
私は一九九八年に本学経済学部に着任し、以来、中国語

の授業を担当しています。専門は中国近現代史・国際関係史で、最近は、日中戦争期の中国外交と国際世論について研究しています。各種授業も研究も中国に関わることばかりとなります。

り返つてみると、それは書物を通じてでした。中学生の頃から家にあつた中国古典の入門書や世界史の講座ものなどを読むうちに、次第に中国の文化と歴史への関心を強めました。高校時代には、気に入つた漢詩を暗唱したり、『聊齋志異』のお化けの話を読みふけったり、アジア遊牧民の話に想像をふくらませたりと、すっかり中国マニアになつて学部に着任し、以来、中国語の授業を担当しています。専門は中国近現代史・国際関係史で、最近は、日中戦争期の中国外交と国際世論について研究しています。各種授業も研究も中国に関わることばかりとなります。

定でした。いつたい、豊かな文化と歴史の遺産を持つた伝統中国の王朝体制はなぜ崩壊し、どのようにして共産党体制へと変わつていったのか、から家にあつた中国古典の入門書や世界史の講座ものなどを読むうちに、次第に中国の文化と歴史への関心を強めました。高校時代には、気に入つた漢詩を暗唱したり、『聊齋志異』のお化けの話を読みふけったり、アジア遊牧民の話に想像をふくらませたりと、すっかり中国マニアになつて学部に着任し、以来、中国語の授業を担当しています。専門は中国近現代史・国際関係史で、最近は、日中戦争期の中国外交と国際世論について研究しています。各種授業も研究も中国に関わることばかりとなります。

館では、崩された手書きの毛筆文書を解説するのに苦労しながらも、史料の中から浮かび上がる歴史の世界に引き寄せられました。また、夏休みに各地を安価な鉄道、バスを使って旅行し、中国の「社会主义」国はなぜ対立しているのか。このような自分にとつての謎を解きたい、そのために古い時代の歴史や文化ではなく、近現代中国の政治変容及びこれと関わる国際関係を本格的に勉強したいと思い、大学院では国際関係論のコースに入り、また中国の大学にも留学しました。

大学に入つてからは中国語及びアジアの歴史・社会を本格的に学び始め、また時事問題、国際関係にも関心を抱くようになりました。当時の中国はようやく文化大革命の混乱に終止符を打ち、改革開放路線に舵を切つたばかりで、中越戦争に続いて中ソ関係が緊迫するなど対外関係も不安を持つようになつたのかを振

新疆、さらに砂漠とパミール山脈を越えてパキスタンまで全部陸路で旅行したことですか。留学に出たおかげで、生徒を広げることができたと思つています。

留学生先は南京でしたので、「あの事件」の起きた町に行つて大丈夫かと心配されました。が、特に日本人だからといつて不愉快な思いをすることはなく、よい友人を作ることができました。研修目的の交換留学生でしたので、あまり授業に出る必要はなく、もっぱら図書館や文書館での資料利用に重点をおきました。文書

がいました。中でも思い出に残っているのは、南京から新疆、さらに砂漠とパミール山脈を越えてパキスタンまで全部陸路で旅行したことですか。留学に出たおかげで、生徒を広げることができたと思つています。

留学生先は南京でしたので、「あの事件」の起きた町に行つて大丈夫かと心配されました。が、特に日本人だからといつて不愉快な思いをすることはなく、よい友人を作ることができました。研修目的の交換留学生でしたので、あまり授業に出る必要はなく、もっぱら図書館や文書館での資料利用に重点をおきました。文書

館では、崩された手書きの毛筆文書を解説するのに苦労しながらも、史料の中から浮かび上がる歴史の世界に引き寄せられました。また、夏休みに各地を安価な鉄道、バスを使って旅行し、中国の「社会主义」国はなぜ対立しているのか。このような自分にとつての謎を解きたい、そのために古い時代の歴史や文化ではなく、近現代中国の政治変容及びこれと関わる国際関係を本格的に勉強したいと思い、大学院では国際関係論のコースに入り、また中国の大学にも留学しました。

大学に入つてからは中国語及びアジアの歴史・社会を本格的に学び始め、また時事問題、国際関係にも関心を抱くようになりました。当時の中国はようやく文化大革命の混乱に終止符を打ち、改革開放路線に舵を切つたばかりで、中越戦争に続いて中ソ関係が緊迫するなど対外関係も不安を持つようになつたのかを振

編集後記

2012年3月20日 第47号
発行 白門経友会常任幹事会
発行人 白門経友会編集委員長
鈴木秀男
〒192-0355 八王子市堀之内817番地
鈴木様方
TEL 042 (676) 8266 (代)
FAX 042 (674) 8668
E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp
郵便振込口座 00180-7-753686

母校の多摩校舎も間もなく桜の季節を迎えます。多くの学生が卒立つて行き、又、多くの新入生が集まつて来ます。そんな当たり前の春を昨年は迎える事が出来ませんでした。震災からの復興は思うように進んでおりませんが、次はもつと明るい春を迎えたんですね。